

4-2-10 航空（丘珠空港）

(1) 丘珠空港の果たす役割

広域で分散型の地域構造をもつ北海道において、企業の活動拠点や高度医療機関など高次都市機能が集積する札幌と地方主要都市を高速移動手段である飛行機で結ぶ丘珠空港は、札幌市はもとより北海道全体にとって重要な空港です。

平成 22 年 3 月、北海道の航空ネットワーク形成の考え方や各空港のめざす姿とその実現に向けた方策を明らかにするために北海道により策定された「道内空港活性化ビジョン」においても、新千歳空港との役割分担を踏まえながら、道央圏と道内各地の交流を支える道内航空ネットワークの中核を担う空港として位置付けられています。

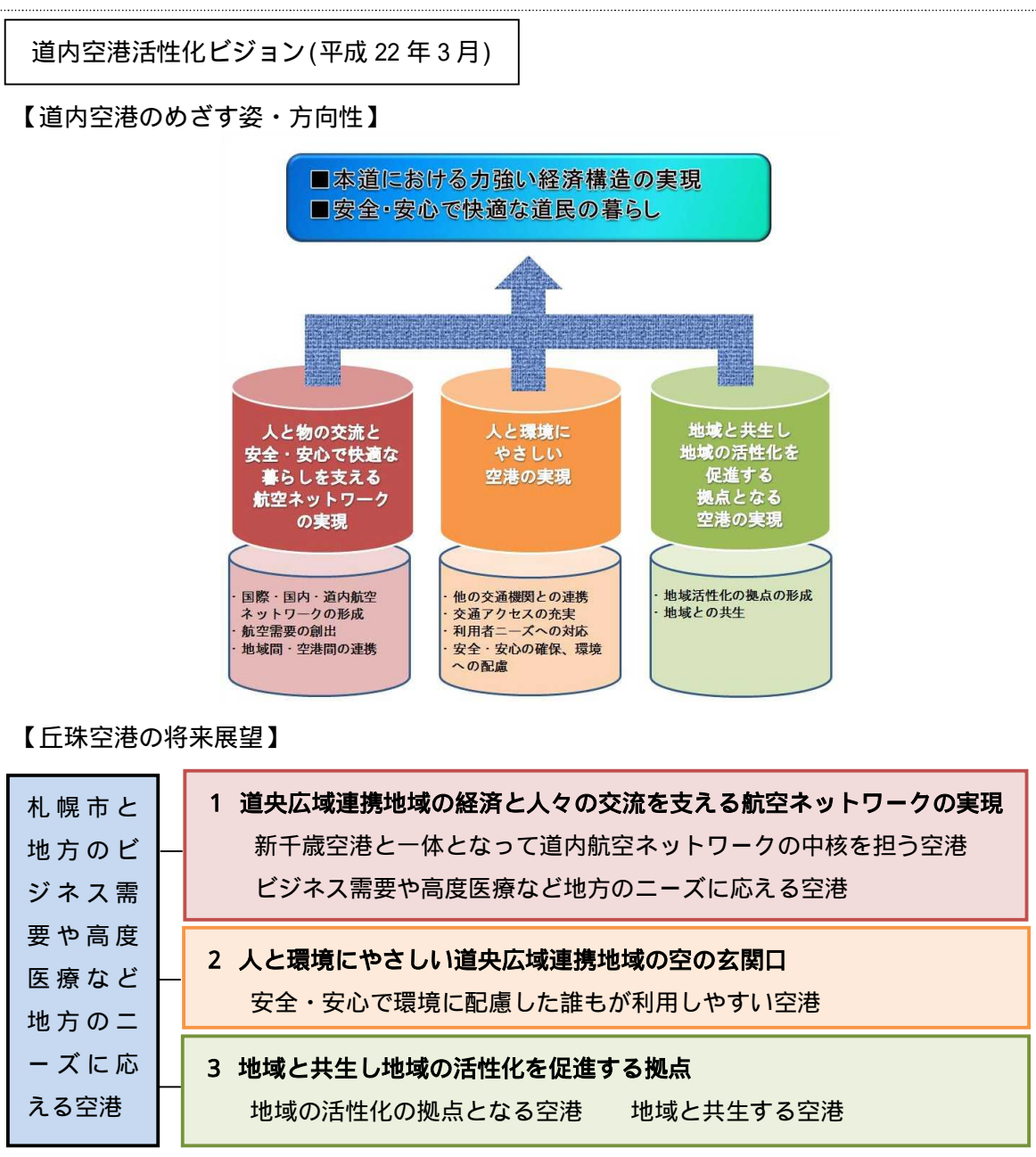


図 4-46 道内空港活性化ビジョン

(2) 丘珠空港の現状

平成 22 年 7 月 1 日よりエア・ニッポンネットワーク(A-net)が丘珠空港発着路線(5 路線)を新千歳空港へ移転し、丘珠空港の就航路線は北海道エアシステム(HAC)の 2 路線のみとなりましたが、平成 23 年 6 月 1 日より、新千歳空港発着の HAC 路線が丘珠空港に集約され、4 路線(函館・釧路・女満別・利尻(平成 23 年 10 月運航開始予定))が運航されることとなりました。また、都心部に近接していることから、丘珠空港はビジネス利用が圧倒的で観光利用は少ないという特性があります。



図 4-47 丘珠空港集約後の HAC 路線

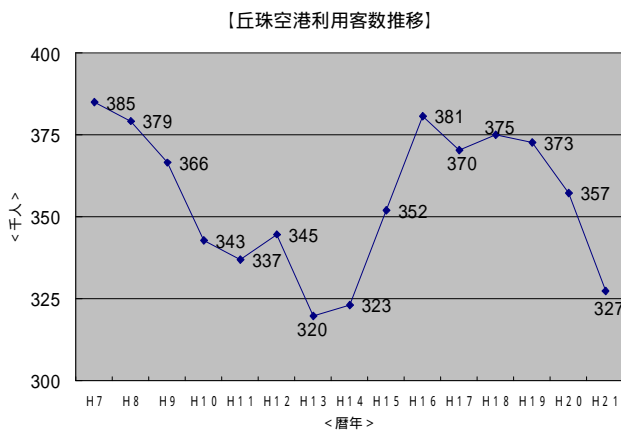
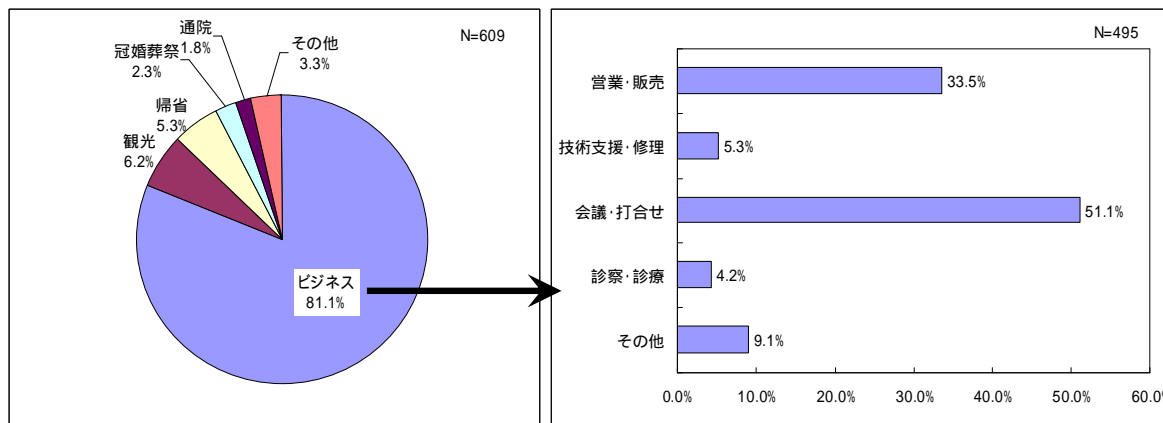


図 4-48 丘珠空港利用客数推移



資料：航空ネットワークに関する調査事業(平成 22 年度北海道)

図 4-49 丘珠空港利用目的

(3) 丘珠空港の将来展望

丘珠空港の道内航空ネットワークの拠点としての機能を維持・強化していくため、利用者数の拡大や道外空港も含めた新たな路線の就航が望まれます。そのためには、現行路線の利用促進や利便性の向上等の取り組みを進めていく必要があります。